



# まほろばの丘から



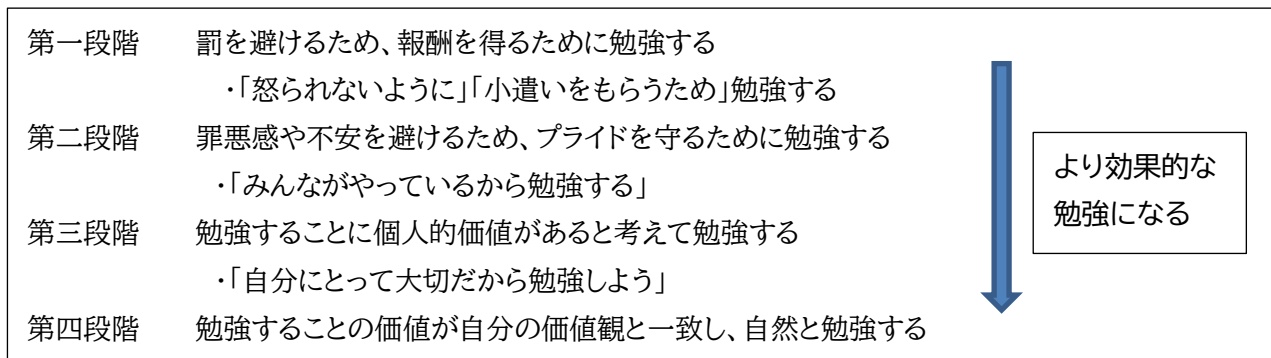
令和4年1月18日 文責 校長 江口 尋信

## 勉強する動機(モチベーション)

さて、先日、ある保護者の方から「うちの子は自分から勉強しません。いい点を取ったら100円ご褒美をやるかなと思っています。校長先生、どう思いますか？」と質問されました。私は、「そうですね、あまり好ましくはないですね。」と、曖昧で、要領を得ない回答をしてしまいました。

人が何かをしようとする動機(モチベーション)には、「内発的」なものと「外発的」なものがあります。勉強で言えば、「勉強することが楽しい」「新しいことを知ることが面白い」「できないことができるようになりたい」というように、勉強から得られる満足感を理由として勉強することが「内発的」な動機です。「外発的」な動機は、「怒られたくないから」「みんながやっているから」というように、安心や報酬などの見返りを得るために勉強しようとするものです。

わたしたちは、賃金を得るために働いたり、人から悪く思われないようにルールを守ったりするなど、多くの場合に「外発的」な動機によって行動します。大学に合格するために勉強する受験生も「外発的」な動機で勉強していることとなります。ですから、「外発的」だからといってすべてが悪いわけではありません。「外発的」な動機にもいろいろなレベルがあるそうです。教育学博士の横田晋務先生は、「外発的」な動機を次の4段階で整理されています。



これを見ると、第三・四段階は、しっかりとした理由だと思います。一方、「いい点を取れば100円」というのは第一段階であり、ご褒美がなくなれば勉強しなくなってしまいます。結果として、「内発的」な動機が強い子どもの成績が最も高く、次に高いのは、「外発的」な動機の第三・四段階が強い子どもだということが明らかになっています。「好きこそもの上手なれ」とは、実に言い得て妙だなと思います。

横田先生は、勉強をしようとする動機を高めるために教師や親にできることとして、「①その子にあった難易度の課題(難しすぎず、易しすぎない、チャレンジしがいある課題)に取り組みさせること」「②適切な評価(結果にこだわらず、挑戦や努力を評価)をすること」の二つを挙げています。また、やってはいけないこととして、子どもが頑張っても「他の人はもっといい点を取ったんじゃない?」「いつもそれぐらいやればいいのに」等、子どもを否定する言い方をしないということも挙げています。さらに、お金や食べ物、玩具などにとって替わるご褒美として教師や親の「笑顔」だとおっしゃっています。何かをやったときに、「笑顔」を向けることは、ご褒美をもらうことと同じ効果があるそうです。

子どもたちのチャレンジや、頑張る過程を大いに認め、褒める。そして、子どもたちに満面の笑顔を贈る。以上が「いい点を取ったら100円ご褒美をやるのはどうか」に対する私の答えです。